

＊9 番テーブル 総評＊

ジャッジ:篠原(AGU4)

テーブルメンバー

今井(立教3) 野中(立教3) 奥田(上智3) 藤田(武蔵2) 野澤(法市2) 和田(早稲田3)

小田原(明治2) ※順不同

春の大セミナーお疲れ様でした。

私から総評として 1. テーブルの流れ 2. 個人順位と選定理由 3. 少しだけ感想 をここに残しておきます。

また、ジャッジの理解とテーブルメンバーの理解に多少ズレがあるかもしれませんが、そのあたりはご容赦願います。

1. テーブルの流れ

<Narrow から NFC まで>

今井のナローから始まり、OP に野中、奥田、今井の 3 人が臓器移植のオピシで立候補。

各々のアイデア理解のための Q がいくつか出た後、OP には奥田が選ばれた。

ASQ においては、野澤や小田原を中心に言葉の確認や AD の立論方法、コンパリアソンアイデアに関する質問が出された。

特にごちやることもなく ASQ は終了。

<NFC>

小田原がアーギュメントを提示。

脳死を治す医療技術は存在しないが、今後医療の進歩により脳死も治る。

そんな脳死患者を残しておくことは、医療に貢献する可能性があると言える。

そのため、今回は日本政府として着手すべきでない、という内容であった。

はじめに、野中と奥田を中心にアイデア全体の理解のための質問、小田原が提示した論点に関する質問がされた。

野中の ①医療技術の向上とは何を指すのか ②医療技術が向上するのであればなぜ着手すべきでないのか

という質問と、奥田のコンファメーションにより小田原のアイデアの全体像が理解された。

そして、脳死患者をサンプルとして残しておくことはもちろん医療への貢献と言えるが、移植手術でも貢献は見込める

というアイデアが野中により提示された。

このアイデアにより、臓器提供を強制するという行為は M/S/B の余地がる、という事が認められた。最終的には、奥田のカンファメーションによりコンパリソンで話すとされ、小田原のアイデアは収束した。

<Mandate と Solution>

現状との違いの詳細を確認するための質問がいくつか投げかけられた。

Mandate では 家族も患者も提供に反対の時は強制しない という提案が今井によりされたが、奥田はスタンスを変えずに Solution へ。

Practicability では、野澤による反論があった。

野澤のアイデアは

- ① 日本政府は、日本国民に対して子供の安全を守ることを義務としている
- ② しかし、親が子供の臓器提供に対して反対できない(=子供の安全を守ることができない) というのが今回の政策である
- ③ 日本政府の与えている義務と今回の政策は矛盾している
- ④ 自己矛盾を招くような政策を取ることは不可能である

という内容のものであった。

ここでは“Self-Contradiction”という言葉が使われており、この言葉の定義の確認、

また Practicability とのつながりを理解するために大きな時間を割いた。

このアイデアにおいても、奥田と野中によるカンファメーションを中心とした介入が展開された。

多くの質問が飛び交う中、日本政府の課している義務は脳死患者にも当てはめられるのか、というダウトを今井が提示した。

しかし、今回のアイデアの一番大きな問題は患者の家族の存在である、ということが確認。インダイレクトとされた。

そして日本政府の義務とは、自己矛盾とは、ASQ との違いは何か、などといった質問がされるも、決定打となるものはなく、

なかなか先に進むことができずに議論はここで終了した。

2. 個人順位

1位 野中(立教3)

ASQ から Solution に至るまでのコンスタントな Q や適格な C、またアーギュメントに対しての積極的な介入を評価しました。

とくに NFC においては、相手の出した論点の前提へのダウトやそれを踏まえた自身のアイデア提示を行い、話の収束に貢献していたと思います。

C やダウトの提示のみで終わらせず、S を打つところまで自分で持っていくことができればさらに良くなるかと！

また、今回 2 位とは非常に僅差です。びっくりするくらい僅差でした。

上に述べた点に気を付けたら、もう少し結果が変わっていたかと思います。がんばれ！

2位 奥田(上智3)

OP として議論を進行させ、常に落ち着いた介入で議論の中心にいました。主に C でテーブルの理解度に貢献していた点を評価して 2 位としました。

介入量も多かったのですが、それらはすべて単発の介入だった印象があります。野中さんと同じになつてしまいますが、

話を最初から最後まで自らで収束させる力がついたらとっても良くなると思います。

また言いますが、僅差です。1 位になれる実力は確実にあると思います。

今回悔しさが大きいと思うけど、これをバネにアッセンでは活躍しちゃってください！

3位 野澤(法市2)

ASQ における Q によるコンスタントな介入、また自身のアーギュメントによりテーブルに論点を提示したため 3 位としました。

惜しいなと思ったのは、自身のアイデアがなかなか伝わらず相手に多くの介入をさせてしまった点です。

ブレてなかったし、しっかり詰めてきたという印象は十分に受けましたが、相手になかなか意図が伝わっていなかったかもしれません。

簡潔なプレゼンの練習をして、自分のペースで進めることができれば良いなと思いました！

2 年生、これから伸び放題だね、応援してます！

4位 今井(立教3)

Mandate でのスパイクプラン、Sol のアーギュメントに対して積極的にダウトを提示した点を評価して 4 位としました。

しかし、Mandate に至るまでの介入量が少なかったためにこの順位となりました。

チャートもプレゼンも分かりやすいので、そこを武器にして C や S での貢献ができたならもっと上に行けたはずです。

また、実力が拮抗しているなかで役割を見つけることが課題なのかな、と思います！

アッセンも上を目指して頑張ってね！

5 位 小田原(明治2)

NFC において、自身のアーギュメントを提示した点を評価しました。

しかし、アーギュメントは理解に時間を要してしまい、相手の手助け多く受けている印象を受けました。

相手に任せすぎずに、自分でしっかりプレゼンして相手に伝えることができたらいと思います。

自分の言いたいことを簡潔に、CCF を意識してこれからプレパしたらよくなるかも！頑張ってね！

6 位 和田(早稲田3)

NFC 以降の介入が限定的であったため、6 位としました。

先にも述べたように、今回のテーブルはトリートする人も、S 打つ人も、アーギュ出す人も、いろんな人がいました。

その中でいかに自分の役割を見つけて介入していくか、という事が課題だと思います。

アッセンに向けて、上を目指して頑張ってね！

7 位 藤田(武蔵2)

介入量が限定的であったため 7 位としました。

介入は非常に少なかったけど、Sol で最後にした C がとても上手だなと思いました。

混沌としたテーブルで、ネセを確認するためにマクロなカンファメから入ったの、よかったよ！

たぶんその落ち着いた態度と C の力は今後武器になると思うので、さらに磨きかけて頑張ってね

3. 少し感想

5th C++テーブルということで、みんなそれぞれ色々な思いがある中で挑んでいるんだろうな、と
思いながら見ていました。

そんな中で、一人一人が全力でテーブルと向き合っていて素晴らしかったです。
ただ全力すぎるが故に、人の発言を遮ってしまったり、1by1 じゃなくなったり、ミクロになりすぎて話のゴールが見えなくなったりしたのかもしれませんが。

まとめると

- ① 要するに、こーゆーことでしょ？みたいなメインクレームを理解するための介入
- ② マクロ。話のゴール意識
- ③ 分からなかったら、主張をぶつけるんじゃなくて相手の話を聞く

この3点を意識したら、もう少し先に進むことができたかと思います。

すごく基礎的なことだけど、今回(特に後半)は欠けていたので、もし自分に当てはまっているなと思う所があったら意識してみてください。



本当にお疲れ様でした！！！！！！

